



鎮守の森だより

NPO 法人 社叢学会ニュース

第 16 号

2005 年 7 月 7 日

社叢の面的・全体的保全を！

平成 17 年度総会・研究大会で文化財指定を提起

平成 17 年度の通常総会・研究大会並びに記念シンポジウムは、去る 6 月 4 日(土)に愛知県一宮市の尾張一宮真清田神社参集殿を会場に開催され、会員による研究発表や記念シンポジウムには会員のほかに一般市民も多数参加しました。

この日、午前 10 時に開会した総会は、谷一夫一宮市長・豊島半七一宮市商工会議所会頭の来賓挨拶の後、議長に米山俊直理事(京都大学名誉教授)が選任され、正会員総数 290 名中、154 名(委任状含む)の出席者により、5 項目からなる議案を審議し、全ての議案が承認されました(次ページ参照)。なお、次年度の総会は九州の太宰府天満宮(福岡県)を会場に開催予定です。

総会に続いて行なわれた会員による研究発表は、1 テーマごとに 20 分間発表し、10 分間の質疑を行なう形式で、次の 3 氏が発表しました。芦田一夫氏「屋敷神とその御神木の諸相」、林進氏「社叢の文化財指定をめぐる現状と課題」、田中充子氏「濃尾平野はいかにつくられたか」の 3 テーマ。林氏の発表内容に対し、上田正昭理事長(京都大学名誉教授)からコメントがあり、このたびの「文化財保護法」の改正による文化的景観の

保存と活用の対象として社叢も重視して取り上げ、社叢の面的・全体的保全に活かされるよう関係省庁に要望する旨が参加者全員の賛同をもって採択されました。

午後 1 時 30 分からは、愛・地球博への出展を記念して「森、水といのち～社叢が育む生命の根源～」をテーマにシンポジウムが開催されました。基調講演はフランス国立社会科学高等研究院のオーギュスタン・ベルク教授が「鎮守の森とこれからの日本の風土性」と題して、和辻哲郎の『風土』の定義とハイデッガーの存在論を関連づけながら、鎮守の森は生態学の次元と象徴的な存在として理解することが必要と講演。パネルディスカッションでは、藺田稔副理事長(京都大学名誉教授)がコーディネーターをつとめ、パネリストとしてベルク教授、大崎正治國學院大學教授、李春子氏(京都大学大学院人間・環境研究科博士課程修了)、上田篤副理事長(京都精華大学名誉教授)が登壇し、それぞれの専門分野の立場から発表の後、活発な自由討議が交わされました。まとめとして米山理事が全体を総括し、内容の充実したシンポジウムとなりました。

美濃国の一宮と国府
金華山の森を守る
伊奈波神社の社叢

講師	宇都宮精秀（南宮大社宮司）
講師	川瀬 健一（金華山国有林保護管理協議会事務局長）
講師	東 道人（伊奈波神社宮司）
コメンテーター	藺田 稔（社叢学会副理事長・京都大学名誉教授）

美濃国の一宮と国府

美濃国は岐阜市を中心として東側に中心部が偏っているが、古代律令国家としての美濃国の中心部は、不破関を中心とする西部の不破郡に集中していた。中山道の不破関は、東海道の鈴鹿関及び北陸道の愛発関とともに古代三関と呼ばれ、天皇の崩御や都で騒動があると、固関使(こげんし)が派遣され、関を閉めて周囲を警戒した。関所と国府が一体となって、防衛線を形成していた。美濃国一宮南宮大社は、北に旧中仙道、東海道線、東海道新幹線が通り、南は名神高速道路が通る現在の交通の要衝にある。

国府跡は南宮大社の真北約2キロにある南宮御旅神社の場所にあった。発掘調査では、社殿がある場所に政庁の正殿があったようで、正殿前のひろばでは、各種の儀式や饗宴が行われていた。昔の人は方角に敏感であったようで、南宮大社の中心線の北方は伊吹山に、南方は熱田神宮に一致する。近くの南宮山は、関が原の戦いでは西軍の毛利秀元が陣を張った場所で、見晴らしがよく、晴れた日には名古屋港まで見える。

藺田稔先生が「瑞垣」2005年春季号で紹介された、南宮大社の社叢を守るために新幹線の計画路線を変更させた当時の宮司は私の父親で、まさに「命をかけて阻止した」と言っていました。

金華山の森を守る

岐阜金華山は、長良川や鶺鴒いと並ぶ、高さ329m、実際は338m(東京タワーより高い)の岐阜市のシンボルである。江戸時代は天領として尾張藩臼井家が代々管理をしており、山への立ち入りや伐採が厳しく禁止されていた。明治になって天皇家の御料林として、戦後は国有林として厚く庇護されてきた。山域は約600ha。内、国有林が198ha、財務省が管轄する岐阜公園が約10ha、国土交通省が管轄する登山道は10本が公開されているが

実際は40数本ある。雨が降ると出現する滝が4つ見つかっている。台風の後など、温泉街から見える滝は壮観である。

金華山は、ツブラジイやアラカシが生い茂る常緑広葉樹の森で、5月初旬には花が一斉に咲いて金華となる。一番情けないことは、二千数百本の樹齢250年以上のヒノキが岸壁の上で立ち枯れていることである。平成6年の異常に暑い夏場の乾燥によって枯死した。金華山の気象は明治16年から観察され続け、年平均気温は明治期には13-14だったのが、現在は15-16と2度以上上昇している。

保安林や教育林や風致地区などの厳しい法規制にもかかわらず、タバコの不始末による山火事や行政改革による管理不足によって、山が荒れてきている。金華山は年間百万人もの観光客や登山客が入る名勝である。近年はボランティア活動も活発化しており、岐阜市の真ん中にある山を、皆で守っていく必要がある。

伊奈波神社の社叢

地元民にとっては金華山というより伊奈波(稲葉)山と呼ぶ方が親しみやすい。名前の由来については、昔、錫が採れたからとか、宮城県の金華山から石を投げて届いた山だからとの言い伝えもある。別名、一石山とも言う。

稲葉山は斉藤道三・織田信長が居城を構えた所として広く知られ、斉藤道三は井之口城を中心として城郭を構成した。昔の武士は街の防衛と発展のために鬼門のような要所に神仏を祀った。伊奈波神社は城から見ると西北に位置し、裏鬼門にあたる。伊奈波神社が西向きに建っているのは、岐阜市の発展を見守るためとされ、460年前に北の円山から移築された。明治期の濃尾地震の際には、多くの市民が神社に避難した。

野口雨情は「伊奈波音頭」を作って、伊奈波神社の神威を讃えたとされている。

次回予告(第6回中部定例研究会)

日時：2005年7月23日(土) 13:30~16:00

場所：諏訪大社下社参集殿(長野県諏訪郡下諏訪町5828、Tel.0266(27)8035)

テーマ・講師：諏訪の社叢 平林 成元(諏訪大社下社宮司) 他

研究会後、懇親会を行います。宿泊も可能です(朝食付1万円)。準備の都合上、参加される方は早めに岡村(052-721-3209)か事務局にご連絡下さい。

書籍紹介

『巨樹に会いにゆく』

巨樹とはどのようなものか？ はっきりした定義はないが、地上 1.3m地点の幹周が 5 mを超えるもの、幹廻りが 10m以上のものなどの説がある。いずれにしても、人の一生をはるかに超える年数を生きてきた巨樹に向かうと、誰しも畏敬の念が湧く。本書は、シイノキ・クスノキ・イチイガシなど「鎮守の森」を構成する樹木をはじめ、スギ・ヒノキ・ケヤキ・ブナ・モミ・サクラ・マツなど約 35 種の巨樹を求めて全国 59 箇所を探訪。巻末には全国の巨樹リストとして、全樹種上位 20 本、樹木別(25 種)上位 10 本、巨樹の森(17 箇所)マップなどを収載。

学習研究社・定価 1,000 円(税込)

事務局から

- トップページで記しました社叢の面的・全体的保全を「文化財保護法」の文化的景観の保存と活用の対象として取り上げてもらおうという件ですが、この度、上田正昭理事長並びに総会・研究大会出席者一同の連名で文化庁長官宛てに「要望書」を送付しました。

平成 17 年度の会費を納めて頂きました方々には、今年度の会員証を同封致しました。会費未納の方は、学会活動を円滑に運

営するためにも何卒よろしくお願い申し上げます。入金が行き違っていましたらご容赦下さい。

編集後記

梅雨入りの後ず～っとぜんぜん雨が降らなくて、四国では貯水ダムがカラカラになって夜間給水という事態に琵琶湖は大丈夫かなあと思っていたら... 7月になっていきなりすげえ雨。今度は洪水警報が出たりして、いつもは長閑な鴨川も濁流となって、鮎もきっとびっくりしてるだろうなあ。

都心で 36 にもなった日、東京で S 副理事長と打ち合わせをし(S 副理事長ついに禁煙！ 残るは I 理事だけか！)、帰りに愛・地球博会場へ。むっちゃ暑いだろーなーと思いきや、夕方だったこともあり、風が涼しくてなかなか快適。会場が閉まるのは午後 10 時だから、これからの暑い季節、夜間割引を狙うのもいいかも(でも、千年の森は日が暮れると閉めますから明るいうちに来て下さいね)。

(藤岡 郁)

お詫びと訂正

先にご送付しました『社叢学研究』(第 3 号)の英文目次 Book Review の欄の「dited」は「Edited」の誤植でした。訂正してお詫び致します。

原稿募集！

『社叢学研究』(第 4 号)への投稿：従来どおり論文、研究ノート、資料紹介や調査報告(各 400 字詰原稿用紙 40 枚以内)のほかに、新たに会員通信「鎮守の森の活動報告」を募集します(下記参照)。今年度の投稿締切りは、いずれも 11 月 30 日(水)必着。

「鎮守の森の活動報告」：祭り、音楽会、問題点など。B5 判 1200 字(市販のもの<コクヨ>を使用)。横書き。手書き、ワープロ、イラスト、写真入り、いずれも可。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115 京都市中京区蛸薬師通堺町西入雁金町 373 番地
 みよいビル 303 号 TEL075-212-2973 FAX 075-212-2916
 URL <http://www2.odn.ne.jp/shasou/> E-Mail shasou@ams.odn.ne.jp
 社叢学会関東支部 〒171-0021 豊島区西池袋 2-36-1 ソフトタウン池袋 1101
 TEL03-5950-6507 FAX03-5950-5184 E-Mail shasou@macrovision.co.jp

社叢インストラクター養成講座
受講者を募集しています！！
9月3日から3日間

日 程

- 第1日 2005年9月3日(土) 午前10時より午後4時
実習地 大阪府豊能町吉川 吉川八幡神社(予定)
実習項目 社叢(森林)の階層の見方、各階層の構造と構成、階層の厚さと空間
社叢の地域における特性と景観の調査法。
講 師 服部 保(姫路工業大学教授・社叢学会理事) 他
- 第2日 2005年9月4日(日) 午前9時30分より午後4時
実習地 奈良市西の京町 養天満宮(予定)
実習項目 森林調査法1(毎木調査と投影図の作成、成果品の読み方)
講 師 山倉拓夫(大阪市立大学教授・社叢学会理事) 他
- 第3日 2005年9月5日(月) 午前9時30分より午後3時30分
実習地 東大阪市出雲井町 枚岡神社
実習項目 森林調査法2(植生調査票の作成と読み方)
講 師 菅沼孝之(元奈良女子大学教授・社叢学会副理事長)
前迫ゆり(佐保短期大学教授)

募集人数 3日間連続して受講できる人15名。募集人員を超過した時は書類審査で受講者を決定

受講料 22,000円(3日間の昼食代含む)

申し込み 事務局へ電話・Fax、E-Mailで会員番号とお名前をお知らせ下さい。追って詳細をお知らせいたします

なお、第1回のセミナーを受けられた方は、3日間のうち、1日でも受講できます。当講座(期)を受け、2年間実務経験を経て、筆記試験と実技試験に合格された方には、「社叢インストラクター」の称号をおくり、実質的に活動していただく事にしました。

次回予告(第16回関西定例研究会)

日 時：2005年7月23日(土) 14:00~16:00
場 所：ウィングス京都2階会議室1(中京区東洞院通六角下る御射山町262 075-212-7470)
テーマ：古代の社叢・寺林・墓林
講 師：和田 萃(京都教育大学教授・社叢学会監事)
コメンター：井上 満郎(京都産業大学教授・社叢学会理事)

次回予告(第16回関東定例研究会)

日 時：2005年7月23日(土) 14:00~
場 所：井草八幡宮エクスカッション
コーディネータ：青木いづみ(東京農業大学地域環境科学部造園科学科助手)